

## 続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.50)

### 「国を知ってもらおうということ」(3)

・・・ライオンの尻尾よりはむしろネズミの頭・・・

メキシコで過ごしていると、驚いたり、感心したりすることがたくさんあり、普通思い浮かべるだろう、サボテンやマリアッチ音楽ばかりではないぞという考えのもと、前回に続く第3話を送りたいと思います。他愛のない話もういいよと言われそうだが、前回までと異なり、必ずしも世界一ではないものもあるが、とにかく、メキシコ国の一端は覗けると思う。(今回も実写とインターネットの写真を取り混ぜてある)

#### 9. 相変わらず規模は大きい

- ① **ラテンアメリカ諸国最大規模の大学**・・・メキシコ国立自治大学(通称 UNAM)、UNAM の前身は1551年9月の創立で、中南米ではペルーの国立サン・マルコス大学に次いで古い。卒業生に3人のノーベル賞受賞者を輩出し、学生数は29万人で、世界7位(放送大学など公開大学等を除く)・・・ボラッチョ氏は、近日中に当大学で講義する予定である。

ちなみに今回のミッションで、講義を続けてきた、国立工科大学(IPN)は23万人の学生(同9位)で、こちらの数も半端ではない。



- ② **世界最大規模の闘牛場**・・・「プラサ・デ・メヒコ」(収容人員64000人)

(日本の国立競技場より収容人数は多い。)

- ③ **世界一の下水管**・・・メキシコシティに建設中の「世界一」の下水管だという。直径7m、延長 65km、最深 200mとのこと。



#### 10. 世界遺産の数も凄い・・・歴史を有している証拠？

中南米で一番世界遺産の多い国は？何とメキシコである。(文化遺産26、自然遺産3で世界6位)、ちなみに日本は文化遺産11、自然遺産3で世界14位である。

- ① **新・世界7不思議の一つにもなっている、チチェンイツア(ククルカンピラミッド)**・・・ここでは、「ククルカンの降臨現象」と呼ばれている不思議な現象がある。春分の日と、秋分の日の太陽の光と影の加減が、この遺跡の階段の一番下にあるククルカン(蛇)の頭と一体となって蛇の



胴体のようにみえる。この現象を出現できたのは、マヤ文明の高度な天文学の知識があったからである。

マヤの人たちは1年の計算を 365.2420 日と計算していたそうで、現在のコンピューターで計算されている1年の長さが、365.2422 日だということと比較すると、その計算の正確さには驚かされる。ククルカンのピラミッドは4つの斜面を持ち、それぞれの階段が91段ずつあり、これを合計すると364段、そして最後の一番上の段を足すと365段になる。それゆえ巨大なカレンダーとも言ってもよさそうだ。

- ② **各首都圏で最大規模と登れるピラミッドの世界一もある**・・・標高2000m以上の高地なので、ボラッチョ氏はよろよろ、よたよた息も絶え絶えに急な階段を昇りきった。頂上からの眺めは雄大だが、下りは下を見



るので怖い。太陽と月の2つの大きなピラミッドがある。

- ③ **世界一の体積のピラミッドにも登ったぞ……** ピラミッドの大きさ一番は、エジプトの大ピラミッド、クフ王の147mの高さのピラミッドを思い浮かべるだろうが、メキシコの Cholula のピラミッドは体積的には世界一だという。



今は、頂上に教会のある丘としか見えないが、メソアメリカ文明の中で、多くの都が繁栄し、そして崩壊し廃墟になって行った中で、この Cholula の都は、2000年もの長い間、存続した都であった。その長い間に、ピラミッドが何度も大きく増築されていった結果、世界一の体積のピラミッドになった。



- ④ **世界一の壁画……** メキシコ国立自治大学 (UNAM) キャンパスの、大学総合図書館の世界一大きな壁画。ユネスコの世界遺産委員会は、この地一帯を、「中南米における最も重要なモダニズムの象徴の一つ」と評価したとのこと。リベラ、シケイロスなどの巨匠を輩出した国なので、このほかにも国のいたるところにスケールの大きな壁画が多い。

## 11. 世界遺産ばかりではない、自然界にも凄いのがあぞ

- ① **メキシコの世界一太い木を訪ねて……** 幹の太さが世界一といわれている、

オアハカ州トゥーレ村に世界最大の木、ヌマスギがある。園内では小学2, 3年生くらいの子どもが、太陽光を鏡で大木に投影して、木のこぶが夫々何か



の形に似ているのを説明していたが、ボーイソプラノで、「ヤ ロ ビエロン (皆さんそれが見えましたか)。聞いている観光客皆一同、「シー (はい、見えたよ)」 (可愛かったな〜) (´ω`) チップもはずんだものだ。推定樹齢 2000年超 根本の幅 約15メートル 根本周囲 約58メートル 樹高 42メートル 推定重量 636トン

- ② **世界有数の大きな岩山を眺めたぞ ……**ユネスコの文化遺産のなかの

無形文化遺産に選ばれている、「トリマンのオトミ・チチメカ族の今に生きる

伝統と記憶、聖地ペニャ・デ・ベルナル」。この一枚の大岩、ペニャ・デ・ベルナルは世界で3番目の高さを誇る一つの大岩である。今から6500万年の昔、火山でマグマが地上に噴出せずに地下で冷え固まり、大きな硬い岩となった。平地からの高さ350m、重さ推定約2000万トン。



せめて途中まででも登りたい血が騒いだが、残念ながら下から眺めただけだ。この岩は何らかのパワーを与えていると言われていたが、眺めただけでは駄目だろうか？ 昔のパワーを取り戻したいものだ。

まだ、次回に続く予定であるが、如何でしたか。国を知ってもらおうと言うことに関して、現今の社会状態に関し感ずることは多々あるが、吉田兼好「徒然草19段」に、「おぼしき事言はぬは腹ふくるるわざなれば、……」

(現代語訳: 思ったことを言わないのは腹がふくれるような感じがすることだから、筆に任せながらの他愛のない遊びなので、すぐに破り捨てたほうが良いものである。人に見せるような価値はない。) とある。約680年後の今日、「続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り」としてよみがえる？ 何と大げさな！今回はボラッチョ氏は特に見解を述べることなく、一人静かにテキーラの杯を淡々と重ねるのであった。(2010年10月10日)